

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## アメリカ映画を観よう： 人権関連場面の案内（その3）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学 公開日: 2021-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 広一 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学短期大学部
URL	<a href="https://kansai.gaidai.repo.nii.ac.jp/records/8004">https://kansai.gaidai.repo.nii.ac.jp/records/8004</a>

## アメリカ映画を観よう 一人権関連場面の案内 (その3) —

短期大学部准教授 岡田 広一

### 1. はじめに 時事問題・人権問題の記録としての映画

映画を観ていると、「ここはどこの町だろう」とか、「今、主人公が持っているものは何だろう」とか、「このシーンで流れている曲は何だろう」というような疑問を抱くことは多い。たくさんの映画を観ていると、同じような場面に出会うことがあり、以前観た映画では理解できなかったことが、他の映画で説明されていたり、調べるためのヒントが見つかることがある。

良い映画は何度も見るたびに新しい発見がある。そして、監督や俳優、音楽や衣装の担当者など、映画の作り手が観客に提供してくれる楽しみをより深く味わうことができる。アメリカ映画を観る場合には、アメリカ合衆国の歴史・地理・文化、そして時事・人権問題等についての予備知識を持っていることにより、アメリカで生まれ育った観客と同じようにその映画の内容を理解し、より楽しむことができるだろう。

本論では*Forrest Gump* (『フォレスト・ガンプ：一期一会』) と *American Pastime* (『アメリカンパスタタイム…俺たちの星条旗…』) の2作品を取り上げる。これらの作品に描かれた、人種差別、障害者差別、性的虐待、暴力などの諸問題を考えるきっかけになれば幸いである。

### 2.1 Forrest の生きたアメリカ

1994年に公開された*Forrest Gump* (『フォレスト・ガンプ：一期一会』) は、Winston Groom (1943-2020) が1986年に発表した同名の小説を基にしたフィクションである。この映画には、主人公Forrest Gumpの成長に伴ったエピソードとして、1950年代から80年代にかけての、アフリカ系アメリカ人の公民権運動、歴代大統領たちとその仕事、ヴェトナム戦争とその反戦運動、アポロ11号の月着陸、麻薬、エイズなど、今日ではアメリカ合衆国の歴

史上の出来事となっている多くの時事・人権問題等が描かれている。この映画は1995年にアカデミー賞の作品賞・監督賞など、計6部門を受賞しており、主演のTom Hanks (1956-) は、前年の*Philadelphia* (『フィラデルフィア』) に続き、2年連続で主演男優賞を受賞した。

ストーリーを構成している一つひとつのエピソードを注意深く見ていると、Forrestの生きた時代を代表するさまざまな出来事が、映画の中の具体的な年・月・日を示していることが分かる。また、この映画で使われている音楽は、1950年代から80年代にかけてヒットした曲であり、作中の年代を示し、アメリカ合衆国のそれぞれの時代の雰囲気と文化を伝えている。そして、その歌詞は曲が流れている場面の内容と深く結びついており、登場人物の心情を表現し、せりふやナレーションで語られなくても物語の次の展開を観客に考えさせたりもする。

本論では、アメリカ合衆国の人種差別の問題、Kennedy、Johnson、Nixon 大統領らとの出会い、ヴェトナム戦争とその反戦運動、Forrestがピンポンをするシーンの意味、そして、この映画で使われた音楽の重要性などについて解説する。

## 2.2 アメリカ合衆国の人種差別の問題

Forrest Gumpが生まれ育ったアメリカ合衆国南部の州では、人種差別撤廃を定めた Civil Rights Act (公民権法) が1964年に成立するまで、日常生活のさまざまな場面で、白人と非白人とが区別されていた。公立の小学校でも、人種で区別されていて、Forrestが乗る通学バスの車内には白人以外の生徒が乗っていない。この映画ではバスが人種差別と関連したキーワードのひとつになっており、Forrestはバス停のベンチで出会った人種・性別・年齢の異なる人々に自分の人生を語る。

この映画は、白い鳥の羽が空から落ちてくるシーンで始まる。主人公のForrest Gumpが公園の前にあるバス停のベンチに腰掛けてバスを待っている。羽の行方を目で追いかけていた映画の観客は、Forrestの足元に落ちる羽によって、彼がはいている靴の汚れに気付くだろう。着ている服はこざつ

ぱりとしているのに、ドロだらけになった靴は、これまでの彼の人生の旅が長く変化に富んだものであったことを暗示している。バスのボディーにつけられた自動車の広告に書かれた“1981”が、この物語の時代が1981年であることを示している。そして、枝にSpanish moss (サルオガセモドキ) が垂れ下がり、葉が生い茂った木々が緑の芝生に長い影を落としていることから、アメリカ合衆国南部の夏の日没前の時刻であろうと推測される。そこはGeorgia州Savannahの町である。

その時、一人のAfrican-American アフリカ系アメリカ人 (以下、日本で一般的な「黒人」を使う) 女性がバス停にやってきて、ベンチに腰掛ける。バス停は木陰にあって少し薄暗く、彼女のはいている靴が白くて新しいことを強調して見せる。Forrestは彼女に自己紹介をして“Those must be comfortable shoes.”「その靴は、履き心地が良さそうだ」と話しかける。しかし彼女は“My feet hurt.”「足が痛い」と言う。人にはそれぞれ、他人には分からない人生の痛みがあることを示している。

ナースの服装をしたこの黒人女性は、1955年Alabama州の州都Montgomeryで、Martin Luther King Jr. (マーティン・ルーサー・キング牧師 1929-68) が指導したバスボイコット運動のきっかけとなった女性、Rosa Parks (1913-2005) と、その後の黒人差別撤廃を求めた Civil Rights Movement (公民権運動) を暗示すると考えられる。アメリカ合衆国南部の州では、1950年代後半になっても、鉄道やバスの車内の座席、レストランのテーブル、プールやトイレなどいたるところで、白人用と、非白人用の設備が分けられていた。バスなどの車内が混雑してくると、黒人は黒人席さえも白人の乗客に譲らなければならなかった。

1955年12月1日夕刻、Montgomery のデパートの仕事を終えたRosa Parksは、バスの車内中央より後ろの黒人席に座っていた。白人の乗客が乗ってきて、運転手が席を譲るように黒人乗客に命じた時、彼女は席を譲らなかった。運転手が警察に通報し彼女は逮捕された。後に彼女は“The only tired I was, was tired of giving in.”「私は疲れていた、唯一、屈服することに疲れていた」と語っている。そのニュースを聞いたKing牧師は、黒人たちにバ

スの乗車をボイコットすることを呼びかけた。1956年11月13日、アメリカ合衆国の連邦最高裁判所が公共交通機関における人種差別は憲法違反であるとの判決を出し、Montgomeryのバスがその決定に従う12月20日まで、このバスボイコットは1年間以上も続いた。Forrestが話しかけた女性のはいていた白いスニーカーが、バスに乗らず、歩いて仕事に通った黒人たちの姿を暗示している。

この黒人女性に、Forrest は子供のころのことを語り始め、映像は回想シーンになる。母子家庭であったForrest家は、部屋数の多い屋敷で下宿屋兼民宿を営んでいた<sup>1</sup>。そのGump Houseへ、まだ無名であったころのElvis Presley (1935-77) もやって来た。ForrestはElvisに与えられた称号“King of Rock'n'Roll”を話題にして、“Some years later, that handsome young man who they called the King, well, he sung too many songs. Had himself a heart attack or something.”「そのハンサムな若者は後にキングと呼ばれ。歌いすぎて心臓発作を起こしたとか」と言う。そしてForrestが“it must be hard being a king.”「キングってたいへんなんだね」と言った時、場面は回想シーンからSavannahのバス停に戻る。黒人女性は読んでいた雑誌から目を上げてForrestの話を聴いている。ここでElvisの称号“the King”と、King 牧師、そしてこのバス停で Forrestが最初に話しかけている黒人女性とが結びつき、King牧師や多くの黒人たちの「たいへん」だった人生を暗示していることが分かる。

### 2.3 弱者へのいじめ

小学校時代、体が弱く知能指数も低いForrest は、近所の子供たちにいじめられ石を投げつけられた。高校生になってもForrest をいじめる3人が、小学生時代と同じような服を着ていることによって、彼らがずっといじめを続けていたことを示している。自宅前の並木道で、子供のころは自転車で追いかけられた。高校時代はpickup truck 無蓋の小型トラックで追いかけられる。トラックのラジエーターグリルにナンバープレートのようにつけられているのは、Alabama 州の州旗である。そしてそのデザインは“The

American Civil War” 南北戦争(1861-65) 当時に、Jefferson Davis ジェファーソン・デイヴィス(1808-89) を大統領として南部11州によって結成されていた“The Confederate States of America” 「アメリカ南部連合国」(1861-65) の旗である。南北戦争の終結からおおよそ100年経った1950年代になっても、南部のAlabama州では自分たちの「国」の旗を掲げていた。この旗は“Dixie” flag あるいは“Rebel” flag と呼ばれている。“Dixie” はアメリカ南部を意味する。そして“Rebel”(「反逆」)とは、奴隷解放を公約にしたAbraham Lincoln エイブラハム・リンカーン大統領(1809-65)の「北部」、すなわちアメリカ合衆国に対する反逆である。南部の人々の多くは、南北戦争で北部に敗北したことを認めず、かつて奴隷であった黒人がアメリカ合衆国の市民になっても人種差別を続けていた。黒人差別と、Forrestのような障害者への攻撃は、弱者に対する深刻な人権侵害である。

なおこのシーンは、映画 *In the Heat of the Night* 『夜の大捜査線』(1967) に対するオマージュであると考えられる。その映画では、Sidney Poitier (1927-) が演ずるPhiladelphia 市警察殺人課の黒人刑事 Virgil Tibbs が、母親の住むふるさとへ帰る途中、列車の乗り継ぎに立ち寄った南部 Mississippi 州の小さな架空の町 Sparta で殺人事件に巻き込まれる。事件を捜査中の警官は、よそ者の黒人が夜中の駅の待合室にいるというだけの理由で Tibbs を犯人であると決め付ける。銃を突きつけられて壁に手をつけて立たされた Tibbs は、ズボンのポケットから財布を抜き取られる。警察署に連行された Tibbs を、署長の Bill Gillespie (Rod Steiger 1925-2002) も犯人として尋問する。「身分にふさわしくない大金をもっているな、どうやって手に入れた」と聞かれ、「警察官として働いて稼いだ金だ」と答える。Philadelphia 市警察の上司から腕利きの刑事であると推薦された Tibbs は、普段はほとんど事件など起こらない平和な町で、殺人事件に不慣れな Gillespie 署長らに協力することになる。捜査中に町の有力者である農場主を疑ったために、農場主から依頼された白人青年たちの車に追いかけられる。追突しようとする青年たちの車の前の部分に取り付けられている南部連合国の国旗が画面いっぱい大きく映される。

## 2.4 “The Stand in the Schoolhouse Door” 大学事務所入り口の妨害

1963年6月11日、TuscaloosaにあるAlabama州立大学へ初めての黒人学生、Vivian Malone (1942-2005) とJames A. Hood (1942-2013) が入学してくる。Forrestは、早く走ることができるだけでFootball Teamの推薦入学により大学生になっていた。Forrestがその場にいた学生に何が起きているか尋ねると、“Coons are trying to get into school.” 「黒人たちが入学してくる」と言われる。Forrest自身は“coons”と言われても、“raccoon” (アライグマ: 日本語字幕では「タヌキ」) のことだと思っている。

二人の入学に反対して、入学事務所の扉の前に立ちふさがって演説しているのは、Alabama州知事George Corley Wallace Jr. (1919-1998) である。彼は極端な人種差別主義者であり、その年の州知事就任式で、“Segregation now! Segregation tomorrow! Segregation forever!” 「人種差別を今、人種差別を明日も、人種差別を永遠に」と演説した人であった。John F. Kennedy 大統領 (1917-1963) はAlabama州兵に対して、連邦陸軍の指揮下に入るよう命令を出し黒人学生を保護した。

映画の中では、二人の黒人学生が事務所に入ってゆく実際のニュース映像を利用して、女子学生Vivianが本を落とすシーンを創造している。人種差別をする意識のないForrestは、白人学生たちの間からすぐに飛び出し、その本を拾って、“Ma’am, you dropped your book” 「本を落としましたよ」と声をかけている。そして、二人の後に続いて事務所の中に入っていった。この行為によって、扉の前に立ちふさがって妨害をしていたWallace知事の人種差別をForrestが否定したことを表現している。

## 2.5 陸軍入隊

Forrest は大学の卒業式でアメリカ陸軍へ入隊するよう誘われる。US Armyの新兵募集のパンフレットに描かれた人物はアメリカのシンボル“Uncle Sam” アンクルサムである。

軍隊にも差別はあった。入隊式の日、基地へ向かうバスの中でForrestは小学校のバスで空いている席に座らせてもらえなかった時のように拒絶

される。その時、“Sit down if you want to”「よかったら座んなよ」と声をかけてくれた黒人のBubba ババ (Michael T. "Mykelti" Williamson 1957-) と出会う。Bubbaは挨拶もそこそこに、エビ漁船とエビ料理の話が続ける。Bubbaのママはエビの料理人をしている。ママの先祖の家事担当の奴隷のころの姿と、南部の農場主が描かれる。後に、Forrestたちがエビ漁で大儲けをして、その儲けの一部を譲られたママは、料理人を辞めてかなり高級な老人向け住宅で何不自由ない生活をする。その時の料理人が白人の女性であるのは皮肉である。

軍隊では、新兵の訓練はdrill sergeant (練兵係軍曹) が担当する。この訓練の場面は、“Gump! What’s your sole purpose in this army?”「ガンプ! 貴様のこの軍隊での目的は何だ?」と言う練兵係軍曹の兵舎内に響き渡る声で始まる。黒人の練兵係軍曹がForrestをにらみつけて尋ねたこの質問に対して、“To do whatever you tell me, drill sergeant!”「どんなことでも軍曹殿のおっしゃるとおりにすることです」と答え、“That’s the most outstanding answer I’ve ever heard.”「これまでに聞いたもっともすばらしい答えだ」と褒められている。ライフル銃の点検を命じられ、無心で手を動かしてどの新兵よりも早く銃を組み立てたForrestを、軍曹は皮肉な言葉を交えて大声で褒めちぎった後、今度は再び分解するように命じる。英語の慣用句に、“swear like a drill sergeant”「練兵係軍曹のようにののしる」と言う表現があるが、これは「やたらに口汚い言葉を吐く、盛んに毒づく」と言う意味である。

軍隊内での階級は絶対であり、recruitと呼ばれる入隊したばかりの最下級兵にとって、この練兵係軍曹は恐ろしい存在である。南部出身の白人兵にとっては、相手が黒人であっても上官の命令には絶対に服従しなければならない屈辱は耐えがたいものがあり、「こんな黒人にえらそうにされるのは早く終わりにしたい」と言う気持ちで訓練に励んだ。しかし、Forrestはどんな命令にも従順に従い、“You…remember to stand up straight and always answer every question with, ‘Yes, drill sergeant.’”「直立不動で、どんな質問にも、はい、軍曹殿と答えることが大切だ」と語っている。この場面は、



軍隊内では個人の考え、アイデンティティが否定されることを象徴的に描いている。

なお、訓練の場面で理不尽な命令をする黒人の練兵係軍曹を登場させたことや、他の兵士たちが外出している兵舎内で、戦友のBubbaといっしょに床を歯ブラシで磨かされているシーンなどから、この陸軍基地での場面は、海軍航空士官養成学校を描いたRichard Gere (1949-) 主演の映画*An Officer and a Gentleman* (『愛と青春の旅立ち』1982) に対するオマージュであると考えられる。<sup>2</sup>

1974年8月8日、Nixon大統領の辞任会見を中継しているテレビが置いてある体育館で、Forrestは一人でピンポンの練習を続けている。ForrestにとってはWhite Houseで出会った大統領の辞任よりピンポンのほうが大切である。そこへ陸軍除隊の命令書を持って黒人の中尉がやってくる。1973年にヴェトナム戦争が終結し、徴兵で入隊した兵士たちを除隊させることになった。“Forrest Gump”と声をかけられたForrestは、姿勢を正して“Yes, sir.”と大きな声で返事をしてその書類を受け取った。映画*Forrest Gump*の中で、一般の兵士や軍曹より上級の将校として黒人が登場するのはこの場面だけである。これは、アメリカ合衆国の軍隊内での黒人の地位向上を示している。<sup>3</sup>

### 3.1 Kennedy, Johnson, Nixon各大統領との出会い

この映画の中では、実際のニュース映像などを利用して、Forrestが1960年代から80年代当時のアメリカ合衆国大統領と出会う場面が創造されている。そこでは、Forrestの眼を通して見た歴代大統領たちの仕事とそれぞれの政治姿勢が描かれている。

高校を卒業したForrestはAlabama州立大学のFootball Teamに入って活躍する。やがてAll-American Team (全米代表チーム) の選手にも選ばれたForrestは、White Houseに招かれ、John Fitzgerald Kennedy大統領 (1917-63) と会う。Forrestはパーティーで大好きなDr. Pepper (コーラのような炭酸飲料) を15本も飲んでしまいトイレに行きたくなる。Kennedy大統

領は選手たち一人ひとりと握手して“Congratulations! How does it feel All-American?”「おめでとう。全米代表チームに選ばれた気分はどうかね」と声をかけてゆく。Forrestは他の選手たちのように、“It’s an honor, sir.”「光栄です」などとは言わず、“I got to pee.”「ションベンしたい」と答えてトイレに入る。洗面台のまわりには、たくさんの写真が飾ってあった。JohnとRobertのKennedy兄弟が写っている写真のすぐ後ろにはMarilyn Monroe (1926-62) のサイン入りの写真があった。MonroeはKennedy大統領と、そして弟のRobert Kennedy司法長官 (1925-68) とも親密な関係にあったと言われている。同じように腕を組んで向かい合うKennedy兄弟の写真を改めて見ていると、この2枚の写真が暗殺の謎にも関連しているかのようで、Monroeを間にして「困ったな」と言っているようにも見えてくる。

映画に挿入された実際のニュース映像の中で、Kennedy兄弟が髪をかき上げるしぐさが興味深い。兄のJohnは、1963年11月22日、Texas州Dallas市内を走る車から沿道の人々に手を振り左手で髪に触れる。そして弟Robertは、1968年6月5日、Los AngelesのAmbassador Hotelで開かれた民主党の大統領候補者予備選の祝勝会での演説の最後に、勝利のVサインをした右手で髪に触れる。偶然であるが、二人はそれぞれ、このしぐさを撮影された直後に銃で撃たれて暗殺されている。

### 3.2 White House での名誉勲章授与

Forrestは、ヴェトナムの戦場で傷ついた戦友たちを助けたことが、犠牲的な健闘であると認められてCongressional Medal of Honor (議会の名において授与される名誉勲章) をもらうことになる。Lyndon Baines Johnson大統領 (1908-73) は、兵士たちの活躍を国民にアピールして、ヴェトナム戦争の継続を主張する。戦場で負傷したことを聞いたJohnson大統領が、“Well, that must be a sight. I’d kinda like to see that.”「それは大変だったな。負傷したときの傷を見たいものだ」と冗談で言った時、Forrestはその場でズボンを下ろし大統領にお尻の傷跡を見せようとした。これは“mooning”と呼ばれるポーズで、抗議・嘲笑・軽蔑などを意味する。Johnson大統領に

向かってお尻を向けることは、もらったばかりの勲章やヴェトナム戦争におけるアメリカ合衆国の勝利を否定することになる。Forrestは、大切な友達であるBubbaを救おうとしてジャングルに戻り、そこに倒れていた戦友たちやDan中尉を安全な場所まで運んだだけであり、アメリカ合衆国のために英雄的な行為をしたわけではなかった。

勲章授与式の後、White Houseを出たForrestは、Washington D.C.を見物しているうちに、偶然、ヴェトナム戦争反対の集会に参加してしまう。Lincoln Memorial (リンカーン記念堂) の後ろで写真を撮っているForrestのそばに、“Vietnam Veterans Against the War in Vietnam” (ヴェトナム戦争に反対する退役軍人の会) と書かれたバスが停まり、兵士たちが降りてきた。彼らは皆くたびれた軍服を着ており、多くは髪と髭を伸ばしていた。ヘルメットなどに Peace Symbol (☸ Nuclear Disarmament の頭文字の手旗信号を円の中に描いた平和のシンボル) をつけた女性が、軍服を着ているForrestを彼らの列に加えて案内して行った。

反戦集会の会場は、白い大理石で造られたLincoln Memorial の前で、正面のWashington Monument (ワシントン記念塔) がその姿を水面に映すReflecting Pool (リフレクティングプール) と名づけられた池の周りであった。ここは、1963年8月28日、Martin Luther King Jr.が“The March on Washington” (ワシントン大行進) に集まった20万人を越える群集の前で、有名な“I Have a Dream” (「私には夢がある」) の演説をした場所でもある。

ヴェトナム戦争反対集会のリーダーである Abbie Hoffman (1936-89) に声をかけられ壇上に招かれたForrestは、“There’s only one thing I can say about the war in Vietnam…” 「ヴェトナム戦争について、ひとつ話せることは・・・」と語り始める。ところが、集会を監視していた警備員にスピーカーのコードを抜かれるという妨害をされ、彼の演説は集まっていた人々たちには聞こえなかった。しかし、すぐそばで聴いていたAbbie Hoffmanは感動してForrestの肩を抱き、“That’s so right on man. You said it all.” 「そのとおりだ、君はすべてを語ってくれた」と言う。この場面で、映画の観客はForrest の演説の内容を考えるように求められている。Forrestは、友人

Bubbaの戦死やDan中尉の負傷などを語って、「ヴェトナム戦争は続けるべきではない」と言ったと思われる。

### 3.3 Nixon 大統領とWatergate事件

ForrestはRichard Nixon 大統領 (1913-94) にWhite Houseへ招かれ、1971年4月にアメリカ合衆国のピンポンの選手団が北京へ行き首都体育館で試合をした、いわゆるPing-Pong Diplomacy (ピンポン外交) に貢献したことで表彰された。贈られたPlaque(記念の額)には“PRESENTED TO / FORREST GUMP / MEMBER OF THE / UNITED STATES TABLE TENNIS TEAM / AS / PLAYERS OF THE YEAR FOR 1971” (1971年の最優秀選手、アメリカ合衆国卓球チームのメンバー、フォレスト・ガンプに贈る) と書かれている。

Nixon大統領はForrestの泊まっているホテルについて尋ね、“I know a much nicer hotel. It’s brand-new. Very modern” 「もっと良いホテルを知っている。新しくて、とてもモダンだよ」と言う。大統領から薦められたホテルはWatergate Hotelであった。

Nixon大統領は、Watergate Scandal (ウォーターゲート事件1972) で1974年に辞任した。その事件は、Watergate 600 Office Building内の6階にあるDemocratic National Committee Headquarters (民主党全国委員会本部) に、共和党のNixon大統領再選委員会の運動員が侵入して盗聴器を仕掛けたことから始まる一連の事件に、Nixon政権の高官が関与し捜査妨害をしたことである。

Watergate Hotelに泊まったForrestが警備員に電話をするシーンは、1972年6月17日、夜中に共和党の運動員たちが向かいのビルに忍び込み、懐中電灯で照らして盗聴器を取り付けているところであろう。実際に逮捕された侵入者の人数と同じ5つの懐中電灯の光が見えている。それをForrestが、偶然、目撃して“The lights are off and they must be looking for a fuse box.” 「電気が消えて、ヒューズボックスを探しているに違いない」と親切に通報している。これによりForrestは、Johnson大統領から勲章をもらった時、ヴェ

トナム戦争の継続とアメリカの勝利を否定したのと同様に、彼を表彰した Nixon 大統領のピンポン外交や大統領再選を無意識のうちに否定したことになる。

この場面は、深夜にその日のテレビ放送が終わる時であり、テレビの画面にはアメリカ合衆国旗が見え、国歌 “The Star-Spangled Banner” が静かに流れている。番組の終了が、近い将来の Nixon 大統領の辞任を想像させる。大統領は交替するものであるが、国家の象徴である星条旗は変わることなく翻っていることを見せて、アメリカ合衆国は不滅であることを暗示しているようにも考えられる。

#### 4.1 Forrestの世界を広げるピンポン

ヴェトナムの戦場で負傷した Forrest は、当時の南ヴェトナムの首都 Saigon の陸軍病院に収容され、そこでピンポンを覚える。何事にも無心で打ち込む Forrest は瞬く間に上達し、やがてピンポンの腕を買われてアメリカ合衆国陸軍の特別部隊に所属して国内外で旅をすることになり、それが彼の人生の幅を広げいろいろな人と出会うきっかけとなる。

Forrest はヴェトナムの戦場には戻らず、ピンポンでヴェトナム戦争の負傷兵を慰問する。病院の休憩室らしい部屋でピンポンの技を見せている Forrest の背景の壁には、大きな星条旗が掲げられている。その部屋のテレビでは、Apollo 11 号の月面着陸の様子が中継されていて、その日が 1969 年 7 月 20 日であることが分かる。人類として最初に月面に立った Neil Alden Armstrong (1930–2012) 船長の有名な言葉、“That’s one small step for a man, one giant leap for mankind.” 「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」が聞こえている。

Apollo 11 号が月着陸に成功し、宇宙飛行士が月面を歩くということは、東西冷戦当時のライバル国であるソヴィエトとの宇宙開発競争におけるアメリカ合衆国の勝利である。有人ロケットを月まで飛ばす技術は、核兵器を搭載したミサイルを目標に正確に命中させることにも応用されるものであった。しかし、南ヴェトナムを共産主義の北ヴェトナムから守ることが正義で

あると信じて疑わず、国のために戦って心身ともに傷ついた兵士たちや、彼らを世話している病院の医師・看護師たちは、国家の威信をかけた大事業が達成されている瞬間にもかかわらず、テレビの画面には背を向けてForrestのピンポンを見ている。

## 4.2 ピンポン外交

中国とアメリカは、第2次世界大戦終結までは日本を敵にして一緒に戦ったが、戦後、1949年に共産主義の中華人民共和国が成立すると国交が途絶えていた。Richard Nixon大統領のPing-Pong Diplomacy (ピンポン外交) により1972年に国交が正常化する。1971年4月12日、Forrestはアメリカ合衆国の選手団の一員として中国へ行き、北京の首都体育館での試合に参加して活躍した。

後にForrestはピンポンのラケット (英語では paddle) の宣伝をしてお金を儲ける。ラケットを作っている会社が、“Gump-Mao Table Tennis” という商品を売り出した。Forrestの顔が描かれたラケットの裏面には、中華人民共和国主席の Mao Zedong (毛沢東1893-1976) の顔があった。これは、資本主義を否定する中国共産党の指導者が、資本主義の大国アメリカ合衆国の金儲けに力を貸しているという皮肉であり、やがて中国が市場経済を実践して「世界の工場」になることをも暗示していると考えられる。

## 4.3 John Lennon との出会い

中国から帰ったForrestは、テレビのトーク番組 “The Dick Cavett Show” に出演する。その番組のもう一人のゲストはJohn Lennon (1940-80) であった。ヴェトナム戦争に反対し、“Love and Peace” (愛と平和) を求めたJohn Lennonは、1980年12月8日、インタビューの仕事を終えてNew Yorkの自宅マンションThe Dakota Apartments (日本では「ダコタ・ハウス」と呼ばれている) の前に戻ってきた時、Mark David Chapman (1955-) に拳銃で撃たれて殺された。

司会のRichard Alva (Dick) Cavett (1936-) に “Can you tell us, what

was China like?”「中国はどんなだった？」と尋ねられ、“In the land of China, people hardly got nothing at all.”「中国では、彼らは何も持っていない」とForrestは答えた。当時の中国は、共産主義国家の理想として、私有財産の所有を認めておらず、豊かなアメリカ合衆国から行ったForrestたちにとっては驚くことだった。続いて、“And in China, they never go to church.”「そして彼らは教会に行かない」とForrestは言った。共産主義の中国は、宗教は麻薬だと言って信仰の自由を制限していた。アメリカ合衆国の中でも、特に熱心なキリスト教徒の多い南部Alabama州の出身であるForrestは、中国人が教会へ行かないことに驚いていた。

Forrestの言葉を聴いた時、John Lennonは“No possessions?”「何も持っていないって?」、 “No religion, too?”「宗教も信じてないの」と聞き返した。これらは次の “It's easy if you try” とともに “Imagine” (「イマジン」1971) の歌詞である。司会のDick Cavettは “Hard to imagine” 「想像できん」と言うが、Johnは「そんなこと、試してみれば簡単だよ」と答えている。このシーンはもちろんフィクションであるが、Forrestの中国での体験と、この番組での出会いがJohn Lennonにインスピレーションを与え、名曲 “Imagine” が生まれたように考えさせられる。 “Imagine there's no…” 「・・・が無いことを想像してみよう」とJohnは呼びかける。 “country” や “religion” のように、あることが当然と思われているものを無いと想像することは難しい。しかし、国のためや宗教のために死ぬことはないと言って、Johnはヴェトナム戦争反対を訴えているのである。<sup>4</sup>

## 5.1 1950—80年代を反映する映画音楽

映画*Forrest Gump* には、この作品のために作曲されたテーマ曲の他、1950年代から80年代にかけてヒットした、rock'n'roll, folk song, country and western, heavy metalなどさまざまな種類の曲や歌が使われており、Forrestが生きた時代のアメリカ合衆国の空気を伝えている。また、曲の中にはもともと映画のテーマソングとして作られたものがあり、*Forrest Gump* の中でそれらの曲が流れている時、過去に公開されたすぐれた映画

に対するオマージュとして、その作品の設定やストーリーの一部をそれとなく暗示したり、同じせりふを引用したりしている。

## 5.2 Jennyの歌う“Blowin’ in the Wind”の意味

Forrestの唯一の友達であるJenny (Robin Gayle Wright 1966-) は、シンガーソングライターのJoan Baez (1941-) にあこがれている。女子大の寮の部屋には彼女のポスターが貼ってあり、“I want to be famous. I want to be a singer like Joan Baez.” 「わたしは有名になりたい。Joan Baezのような歌手になりたい」と言う。Jennyは女子大を退学して、Tennessee州Memphisで歌手になる。そこはストリップショーなどを見せるクラブであり、酔っ払っていたり、野次を飛ばしたりするだけで歌などまともに聴いていない男性客の前で、Jennyもトップレスの胸をギターで隠して歌う。

彼女が歌うのは、Bob Dylan (1941-) の初期の代表曲“Blowin’ in the Wind” (「風に吹かれて」1963) である。その歌詞の内容は、当時の公民権運動やヴェトナム戦争反対をテーマにしたものであった。その一番の歌詞 “How many roads must a man walk down before you can call him a man? / How many seas must a white dove sail before she sleeps in the sand?” 「人が人と呼ばれるまで、どれほど多くの道を歩いて来なければならないのか/ 白いハトは砂地で眠るまでいくつの海を越えてゆかねばならないのか」は、肌の色の違いなどで差別され、人として扱われない人々のことを表し、ヴェトナム戦争の泥沼化により、平和の象徴であるハトは心安らかに眠ることができないと歌っている。この“white dove” (白いハト) は、『旧約聖書』「創世記」の大洪水とノアの箱舟のエピソードと関連している。ノアは洪水の水が引いて陸地が現れていることを知るために箱舟の窓からハトを飛ばした。ハトは水から出てきた山の上にオリーブの木を見つけると、その小枝をくわえて戻ってきた。この聖書のエピソードや他にもギリシャやローマなどの神話との関連で、ハトは平和の象徴となっている。

この歌は、Forrestに負けないほど波乱万丈なJennyの人生と、そして映画のストーリー全体とも深く結びついている。Jennyは、「白いハトが・・・」



の歌詞のある一番を歌い終わったところで、酔っ払った客たちからまれて、歌い続けることができなかった。これは、彼女がその人生で越えてゆくのが荒波の海であること、眠ることができるのがずっと先のことであることを暗示している。

Jennyの父親は、Forrestから見れば“*He was a very loving man.*”「とても愛情に満ちた人」であるが、次に続く言葉“*He was always kissing and touching her and her sisters.*”「いつもJennyや妹たちにキスしたり、触ったりしていた」を聞くと、娘たちへ性的虐待をしていたことが想像される。そのような父親との生活から逃れるため、“*Dear God, make me a bird so I can fly far, far, far away from here.*”「神様、ここから遠くへ飛んでゆけるよう、私を鳥にしてください」とJennyがトウモロコシ畑の中で祈った時、畑から空へ飛び立って行った小鳥たちは、さまざまな束縛から自由になることを求めるJennyの姿を現していた。Jennyは放浪の旅を続け、多くの男たちと暮らすが、麻薬を覚え心身ともに傷ついて最後はForrestの元に帰って来て、エイズと思われる病気で死ぬ。彼女はForrest家の敷地内にある大きな榎の木の下に造られたお墓に葬られる。その木は鳥たちの家になっており、夕方に鳥たちが戻ってくる。このシーンは、「私を鳥にしてください」とJennyが祈った時から始まる、さまざまな束縛からの自由と、安らげる愛を求めた彼女の人生の旅の完結を意味している。“*Blowin' in the Wind*”の歌詞“*she sleeps in the sand*”は、白いハトで表されたJennyの死と墓の中での安らかな眠りを暗示している。

### 5.3 ヴェトナム戦争の反戦歌 “Where Have All the Flowers Gone?”

首都Washington D.C.で再会したForrestとJennyが、White Houseの前を通りかかった時、キャンドルを持った男女が“Where Have All the Flowers Gone?”（「花はどこへ行った」1961）を歌って歩いているのと出会う。この歌は、Pete Seeger（1919-2014）が1961年に作詞・作曲したヴェトナム戦争の反戦歌で、戦地に行った兵士たちと、あとに残された若い娘たちのことを歌っている。兵士たちの無事な帰還を祈り、大統領官邸を取り囲むように

して歩きながら歌っている男女の列と、ヴェトナムから帰ってきたForrestはJennyと腕を組んで歩いてすれ違う。

#### 5.4 帰郷 “Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree”

アメリカ合衆国陸軍からの除隊命令書を受け取る場面では、Forrestを待っている母親の元へ帰るシーンにふさわしい曲が選ばれている。ここで流れている曲は、ヴォーカルトリオDawn (1970-77) の歌う “Tie a Yellow Ribbon Round the Ole Oak Tree” (「幸せの黄色いりボン」1973) である。この歌は、3年あまりの刑期を終えてふるさとへ帰ってきた男が、「今でも自分のことを愛して待っているのなら、そのしるしに黄色いりボンをオークの木に巻いてほしい」という妻へのメッセージである。この黄色いりボンは、遠くへ行った大切な人を忘れずに待っていることを示すシンボルとして一般に受け入れられており、特に戦場へ行った兵士たちの帰りを待つ家族や友人たちが、ドアや郵便受け、家のそばの樹木などに付ける。最近ではIraqやAfghanistanの戦場に行った兵士の無事な帰還を願って黄色いりボンが結び付けられているのが見られる。

#### 5.5 *Midnight Cowboy* と “Everybody’s Talkin’”

Forrestはヴェトナムの戦場での隊長Lieutenant Dan Taylor (ダン中尉)、(Gary Sinise 1955-) とNew Yorkで再会する。Danは負傷してひざから下の両脚を切断されており、車椅子に乗って生活している。雪の降る夜にDanの車椅子をForrestが押してNew Yorkの通りを進むシーンでは、映画*Midnight Cowboy* (『真夜中のカーボーイ』1969) の主題歌で、Harry Nilsson (1941-94) が1969年にグラミー賞を受賞した “Everybody’s Talkin’” (「うわさの男」1969) が流れている。車が渋滞しているのを見て、DanはForrestに “Take a right. Take a right” 「右へ行け」と言って無理な横断をさせる。車椅子にぶつかりそうになって急停車したタクシーのエンジンフードを叩いて、Danは “Are you blind? I’m walking here” 「見えないのか、ここを歩いているんだぞ」と言ってタクシーの運転手からむ。 “Everybody’s Talkin’” が流

れていることから分かるように、このシーンは*Midnight Cowboy*に対するオマージュであると考えられる。*Midnight Cowboy*では、New Yorkの街角のシーンで、Jon Voight (1938-) が演じるTexasから出てきたカウボーイ姿のJoe Buckと、Dustin Hoffman (1937-) が演じるNew YorkのホームレスEnrico “Ratso” Rizzoが横断歩道を渡ろうとする時、タクシーがぶつかりそうになる。その時、Ratsoはエンジンフードを叩いて、“I’m walking here. I’m walking here.” 「ここを歩いているんだぞ」と叫んでいる。Ratsoは脚が悪く引きずって歩いている。Danは車椅子に乗っており、歩いてはいない。しかし、自分の脚で立ち、もう一度歩きたいというDanの本心がこのシーンで表れている。

## 6. 失われたDan中尉の脚の意味

アメリカ合衆国の歴史は戦争の歴史であった。EnglandとのAmerican Revolutionary War (独立戦争1775-83) を戦ってアメリカ合衆国が生まれ、American Civil War (南北戦争1861-65) では北軍が勝利して黒人奴隷が解放された。そしてWorld War I (第1次世界大戦1914-18)、World War II (第2次世界大戦1939-45) に勝利することでアメリカ合衆国は世界一の国になっていった。Dan中尉と初めて会った時、“He was from a long great military tradition. Somebody in his family had fought and died in every single American war.” 「彼は長く偉大な軍人の家系の出身だ。彼の先祖はアメリカ合衆国の過去の戦争で戦って命を失った」とForrestが考えていると、Gary Sinise (1955-) が演じるDanの先祖の4人の軍人たちが、それぞれの時代の軍服姿で倒れ息絶えてゆく。兵士たちの命と引き換えに勝利を続けて現在のアメリカ合衆国がある。しかし、ヴェトナム戦争では、共産主義国北ヴェトナムの攻撃から南ヴェトナムを守ることができずに撤退して敗北を経験した。これは、資本主義国のリーダーを自認していたアメリカ合衆国の自信喪失につながってゆく。

両脚を失ったDan中尉は、これからどう生きればよいのか分からず、名誉の戦死が自分の運命だったのと言って、助けてくれたForrestに怒りをぶ

つけた。そんなDanはForrestといっしょにエビ漁船に乗り込み、マストの上からエビのいると思われる方角を指して、“Take a left. Take a left.”「左へゆけ」とForrestに指示する。舵を取るForrestは左右さえハッキリと理解できず舵を右に回している。引き上げた網にはエビはかからず、網の中にはトイレの便座・ヘルメット・靴が入っていた。便座は、ヴェトナムの基地でDanがトイレに入る前にForrestに言った命令、“Take good care of your feet. Try not to do anything stupid, like getting yourself killed.”「足に気をつけろ。敵に殺されるようなバカなまねをするな」を思い出させる。しかし、Dan自身は敵に撃たれて両脚を失い、除隊してヘルメットも靴も不要である。このDanの姿は、ヴェトナム戦争で敗北し、自信を喪失したアメリカ合衆国を象徴している。世界の頂点に立ち、他の国々に進むべき道を示しても従う国はない。マストの星条旗はポールに絡み付いてハッキリとは見えていない。またこのせりふは、New Yorkの夜の場面のせりふと対応している。すなわち、“Take a right.”と言われたForrestが右に進み道路を横切ろうとするとタクシーにぶつかりそうになり、“Take a left.”と言われて左に行ってもエビは捕れなかった。

これまでの人生をまっすぐに進んできたForrestの生き方を見て、Danは変化してゆく。1974年9月8日、Louisiana州に上陸したHurricane CarmenがAlabama州にも大きな被害をもたらした。港に避難していた他のエビ漁船が破壊されたのに、海上にいたForrestとDanの船Jenny号は右にも左にも行かず、まっすぐに風と波に向かって進むことにより無傷で助かった。この時、髪と髭を伸ばしたDanがマストの横木に腰掛けている姿は十字架にかけられたキリストのように見える<sup>5</sup>。このシーンは嵐の夜で、Danの表情は見えないが、彼の後ろで強風にはためいている星条旗には光が当たりハッキリと見えている。Hurricane Carmenに立ち向かうこの船とDanの姿は、苦しい試練を経て再生・復活を成し遂げるアメリカ合衆国を象徴していると考えられる。

## 7. *Forrest Gump*に記録されたアメリカ合衆国の重要事項

1989年に東ヨーロッパの共産主義国家は崩壊し、11月にはBerlin Wall (ベルリンの壁) が開かれて、東ドイツの国民が自由に通行できるようになった。そして、ソヴィエト社会主義共和国連邦も1991年12月26日に解体され、アメリカ合衆国は世界で唯一の超大国となった。また、クウェートを侵略したイラクに対して、多国籍軍が攻撃を行ったGulf War (湾岸戦争1990-1991) も、アメリカ軍が中心的な役割を果たして勝利した。映画*Forrest Gump*が製作され公開された1993-94年は、アメリカ合衆国が国家の威信を取り戻し、軍事的・経済的に世界のリーダーとしての地位を取り戻していた。

ForrestとJennyの結婚式の時、Danがspace shuttleにも使われているチタン製の義足をつけて歩いてやってきた。DanのフィアンセSusanは、アジア系の女性で、その顔立ちと優しい笑顔を見ると、DanがNew Yorkで付き合っていた女性たちとは人種だけでなく人格も異なっているように思える。新しい脚を持ち、新しいパートナーと共に歩いて行こうとしているDanの姿は、かつては敵対していた国々と共存して前進してゆくアメリカ合衆国の姿を象徴している。

映画*Forrest Gump*の本編142分のうち、ここで取り上げたわずかな部分の中にも、公民権運動、ヴェトナム戦争、アポロ11号の月着陸、中国との国交正常化、ウォーターゲート事件、そしてJohn Lennonの死と拳銃の問題など、現代アメリカ合衆国の重要な時事問題がいくつか見られた。*Forrest Gump*のような、主人公の成長を描いた映画では、さまざまな時事問題や流行の音楽などが、登場人物の人生とその人が生きた時代とのかかわりを表している。映画中のテレビのシーンや流れている音楽などを見聴きして、それらを瞬時に理解し、その場面のストーリーの内容と結びつけて観ることができるようになれば、その映画をより良く理解することができ、より深く楽しむことができるであろう。

文学作品をより良く理解するために精読と多読が大切であるように、映画をより良く理解するためにはひとつの作品を何度も「精観」することと、さまざまな作品を「多観」すること、そしてその作品に描かれている時事問題

や時代・文化背景などについての知識を深めることが重要である。

## 8. *American Pastime* 自由の国アメリカで自由を奪われた日系アメリカ人

*American Pastime* (『アメリカンパスタime…俺たちの星条旗…』2007年) は、第二次世界大戦時のLos Angelesに住んでいた日系アメリカ人家族の物語である。

映画はEast Los Angelesの街の風景から始まる。1941年当時を記録した写真や映画が日系アメリカ人の暮らしを紹介する。地元高校のprom卒業記念ダンスパーティー、ガウンに角帽の卒業式、ユニホーム姿のLyle Nomura (Aaron Yoo 1979-) の笑顔。それは、高校のBaseball teamのピッチャーとして活躍し、優勝した時の写真であろう。彼が奨学金を獲得してSan Francisco State Collegeへ進学することなど、Lyleの語りで物語は進んでゆく。なお本論では、日本語の「野球」と区別して英語の“Baseball”を使うことにより、Baseballがアメリカ人のこころと日常生活に深く結びついた存在であることを表している。

豊かなアメリカを象徴するようなNomura家のホームパーティー。そこには人種・民族を超え、アメリカ人として近所づきあいをしていた人々が描かれている。花屋を営む両親Kaz (Masatoshi Nakamura 中村 雅俊 1951-) とEmi (Judy Ongg 翁倩玉1950-) が料理を並べている。長男 Lane (Leonardo Nam 1979-) もパーティーの準備に加わっている。Laneは高校を卒業するとすぐに家業を手伝っており、次男のLyleは家族の中で初めて大学へ進学することになっていた。このパーティーはLyleの卒業・進学の祝いとお披露目のための集まりであろう。Lyleは自室でJazzのレコードをかけサックスを吹いている。そこにいるのは日系人以外の人種・民族の友人たちである。

“pastime”は「娯楽や趣味」そして「気晴らし」「レクリエーション」の意味である。題名になっている“American pastime”は、一般にはBaseballを観戦すること、そしてプレイすることである。しかしLyleにとっては、地元のチームで活躍していた父親に教えられたBaseballと、自分で始めたサックスの演奏が“pastime”であった。この場面で2度語られる“Jazz

and baseball” が、アメリカ人であるLyleの “pastime” であり、“American citizen” 「アメリカ国民」としてのアイデンティティであった。

しかし、2度目の “Jazz and baseball” に続いて、1941年12月7日のPearl Harbor攻撃のニュース映像が流れる。それはアメリカ合衆国の太平洋側の州に住む日系アメリカ人にとって苦難の歴史の始まりであり、Lyleの将来の夢も碎かれる。

1942年2月19日、大統領Franklin Roosevelt(1882-1945)はExecutive Order 9066「大統領令9066号」を発令した。「防衛と諜報防止のために」日系アメリカ人たちは仕事や財産、そして様々な自由を奪われ、住み慣れた町から強制的に移動させられ収容所に送られた。

自宅の居間で家族4人と愛犬を撮影した写真。それは、日本からアメリカへ渡ってきて、様々な苦労を経て成功し、幸せで豊かな暮らしをしていた日系人Nomura家のLos Angelesでの最後の記録である。

“We were given 10 days’ notice. Ten days to close the family business…” 「わずか10日間で家業をやめなくてはならず、家財を売り払い、愛犬を隣人に譲った」とLyleは語っている。

ガラス窓に大きくNOMURAと書かれた花屋の店先に立つNomura夫妻の写真の笑顔は、大変な苦労と努力の末、自分たちの店を持つことができたときの最高の幸せの笑顔であろう。しかし、その “family business” も手放し、自分で運ぶことができるだけのわずかな荷物を持ってバスに乗せられ、列車に揺られてゆく。生まれてからずっとLos Angelesで暮らしていた息子たちには見慣れない風景が車窓を流れてゆく。

彼ら日系アメリカ人たちは、Utah州Millard郡Abrahamの荒野に建設されたThe Topaz War Relocation Center「トパーズ戦争移住センター」へ連れて来られた。“relocation” 「移転・移住」とは、“incarceration” 「投獄・拘禁」の婉曲な表現である。

この場面で、彼らが最初に耳にする言葉は、収容所のスピーカーや看守であるアメリカ陸軍のMP「憲兵」たちが言う “Prisoners, step away from the fence” 日本語字幕では「捕虜はフェンスから離れる」であった。なに

も悪いことをしていないのに “prisoners” 「囚人」扱いを受ける理不尽さは想像を超えるものがある。

## 9. 「神話英雄伝説の法則」について

Nomura家や、他のNikkei「日系」アメリカ人たちのLos AngelesからTopazまでの移送と、収容所の「塙の中」での暮らしは、「神話英雄伝説の法則」の「旅立ち」と「試練」に当てはまる。<sup>6</sup> ここで、「神話英雄伝説の法則」について短く解説する。

物語の最初に、主人公は、旅立ち、或いは、引っ越しを経験する。旅立ちの場面では、住み慣れた場所を離れて、新しい人生を経験し新しい出逢いをする。これまでの生活空間から離れるところには、川・湖・海などの水辺があり、それらを橋や船などで越えて新しい世界へ踏み出すことが多い。ここで直接、あるいは間接的に触れる水は、心を洗い、人生や人間関係をリセットするきっかけになるある種の「清めの水」と考えられる。また、旅立ちの際には、深い森に分け入る狭い道や、トンネル状の通路を通ることもある。

主人公たちは荒野・砂漠・ジャングル・雪山・嵐の海、あるいは不思議な国などに向かい、そこで試練や冒険を経験する。都会であっても同様の景観をイメージさせるような場所である。気候条件も、灼熱・厳寒・暴風雨・大洪水など、大変厳しいものである。試練の中には敵対する人物や猛獣・妖怪などとの遭遇や戦いも含まれる。同時に、新しい出逢いがあり、友情や援助と思わぬチャンスにも恵まれる。偶然のように思われるが、実は必然的な出逢いや運命の導きによる力を借りて、長く続いた戦いを終わらせたり、人々を幸せにする偉大な事業などを達成したりする。主人公たちはその世界で生きることにより、成長や変身を成し遂げる。

帰還の場面では、宝物を手に入れて故郷や家族のもとに帰って来る。宝物は高価な品物であるより、精神や肉体の強さ、愛する人や、信頼できる友人・仲間たちなどであることが多い。元の世界に戻る時には、再び水辺に来て川・湖・海・橋を渡り、トンネルを通る。元の世界に戻った主人公たちは以前と変わらぬ人物ではなく、さまざまな成長をしている。



これらの法則の中で、特に「旅立ち」と「試練」、そして、人生と心境の変化するときに現れる「トンネル状の通路」と「清めの水」に当てはまるシーンを指摘する。

## 10. 収容所のフェンスと門

日系アメリカ人たちが、Utah州の荒野に建設されたTopaz収容所に移送されてきたときから、施設を取り囲んでいるフェンスと門が何度も画面に現れる。この門が「トンネル状の通路」である。この門を出入りするときに人々の運命に変化が起きる。一番大きな変化は、収容所への最初の到着である。日系アメリカ人の中でも、特に、アメリカで生まれ育った「アメリカ人」である若い世代にとっては、突然“Jap”と呼ばれることはたいへんな屈辱であった。そして、両親たち一世の人々にとっても、長年の苦勞の末にアメリカ社会にやっと受け入れられていたという思いが否定された。

収容所の暮らしの中で、父Kazは割り当てられたバラックの世話役となり、妻Emiと長男Laneも住環境の改良などに積極的に取り組む。しかし、次男Lyleは大学進学のを閉ざされBaseballをプレイすることもサックスを吹くことも自由にできず、毎日を無為に過ごしていた。

KazはLyleに「地元でいたときのようなBaseball leagueを創る」手伝いをさせようとするが、Lyleは乗り気ではなかった。この時Kazは、Hawaii出身のBambino Hirose (Leroy Big Buddha Teo) が息子とキャッチボールをしている姿を観ている。背景には収容所のフェンスとその向こうに荒野が広がっている。アメリカ人の父親の理想は息子とキャッチボールをし、Baseballを語ることである。不便な収容所暮らしをしても“American pastime”を楽しむ「アメリカ人」の姿がそこにあった。

## 11. 反体制派グループの再移送

雨の夜、食堂の前で順番待ちをしている人々に向かって、人権侵害を訴えるグループが呼びかける。

“How can we be held without being charged with breaking any laws?”

What happened to the Constitution?” 「なんの罪も犯していないのにこんなところに入れられておかしいと思わないのか。合衆国憲法はどうした」と詰め寄る。しかし、列の先頭に立つNomura親子や他の収容者たちは彼らの声に耳を貸さず、食堂に入ってゆく。

この映画の中で「清めの水」である雨が降っているのはこの場面だけである。「雨の夜」に、「人々のトンネル」を通ることによって、彼ら反体制派の収容者たちの運命に変化が起きる。翌日、彼らはトラックに乗せられ収容所の門を出てゆく。その後、このグループがTopazに戻ってくることはなかった。この場面で声高に“Demand answers” 「答えを要求しろ」と訴えている人々のリーダーは、映画最後のクレジットタイトルでは“Dissident” 「反体制派」としか紹介されない。この人物は、Topazの被抑留者で「強制収容はアメリカ合衆国憲法で定められた自由を侵害している」と訴え、アメリカ合衆国最高裁判所まで争ったFred Korematsu vs. United States 「フレッド・コレマツ対アメリカ合衆国事件」のFred Toyosaburo Korematsu (日本名：是松 豊三郎、1919年1月30日 - 2005年3月30日) へのオマージュとして創作されたと思われる。

## 12. KatieとLyleの出逢い

看守のひとりBilly Burrell軍曹 (Gary Michael Cole 1956-) はAbrahamの町のMinor-league Baseball team Abraham Beesの選手でもある。Burrellの娘Katie (Sarah Drew 1980-) は日系人の少女たちに音楽と歌を教えていた。その音楽室でJazzのサクスを吹くLyleと知り合いふたりは親しくなる。LyleからJazzピアノの演奏を勧められたKatieはLyleのサク스에合わせてピアノを弾く。Delaware大学の音楽学部へいっしょにゆこうと誘われる。KatieはAbrahamの町から、そして父親のいる家から出てゆきたかった。彼女も収容所の「門を通過して」フェンスの中に入ることによって運命の変化を経験する。

### 13. Laneのアメリカ陸軍入隊と帰還

1943年のクリスマスパーティーの時、長男のLaneは両親に「軍隊に入隊した」と告げる。彼はアメリカ国民として国に忠誠を誓い、自らの力で「門の外」へ出ようとした。入隊するときは、見送る両親の視線でLaneの乗ったトラックが収容所の門を出てゆくところが描かれている。

Laneは、日系アメリカ人で組織された442nd Regimental Combat Team「アメリカ陸軍442部隊」に入隊し、ヨーロッパ戦線に送られた。そのスローガン“Go for Broke”「当たって砕けろ」で知られる442部隊は、フランスのボージュ山地でドイツ軍に包囲され身動きできなくなっていた211名のTexas battalion「テキサス大隊」を救出するため、216名もが戦死し、600名以上の負傷者を出した。アメリカ陸軍の中で最も多くの勲章を受けた部隊である。

看守のCorporal Norrisノリス伍長 (Charles Halford 1980-) は、442部隊の活躍と多くの戦死者・負傷者を出したことに心を動かされる。Norrisは負傷して除隊したLaneをAbrahamに迎えに行ったとき、理髪店の主人であり地元のBaseball teamの選手でもあるEd Tully (Jon Gries 1957-) が “I don't cut Jap's hair.” 「ジャップの髪は切らない」と言ってLaneの散髪を拒否するところを目撃した。Norrisは “Lieutenant Nomura” 「Nomura中尉」と声をかけて自分より上官になったLaneに敬礼した。収容所の門に立つ兵士たちもジープに乗ったLaneに敬礼した。Laneは門の内側に立って彼を出迎えてくれる両親の姿を見た。

### 14. Baseballの試合

Lyleがピッチャーを務めるTopaz収容者リーグのチームが、地元チームのAbraham Beesと試合をする。Topazチームの応援のために、家族たちもみな収容所の「門を通過してフェンスの外」へ出ることができた。これは、『旧約聖書』“Exodus” 「出エジプト記」で、奴隷にされていたユダヤ人たちが、Moses モーゼに率いられて砂漠の土地エジプトを出て「約束の土地」イスラエルへゆく旅になぞらえることができるかも知れない。Lyle がモーゼならば、兄のLaneはモーゼの兄Aaronアロンのような役割を演じた。試合の

重要な場面で、バッターボックスに立つLyle に兄のLaneが “Go for Broke” 「当たって砕けろ」と声をかける。観客の日系人がみな “Go for Broke” と声をそろえて言った。ちょうどこれは「出エジプト記」のアマレク人との戦いの場面で、杖を持った手を挙げて勝利を祈るモーゼを、兄のAaron アロンと彼らの側近Hur フルが支えた時のようである。

この映画ではLos Angelesへの帰還は描かれていない。しかし、収容所の「門から出て」、試合に勝ったことが、彼ら日系人全員の勝利であり、“American pastime” であるBaseballを愛する「アメリカ国民」としてのアイデンティティの回復である。

試合前に監督であるKazが選手たちに語りかける。

“Everybody… we know what we have to do… to win today. But…today is not just about winning. Dignity of the game, and the dignity we have… here” と「みんな、われわれは何をすべきか知っている。今日の勝利だ。しかし、ただ試合に勝つだけじゃあない。試合の尊厳、そして我々がここ（胸の中）に持っている尊厳を勝ち取るんだ」言って胸に手を当てた。試合に勝つことによって彼らは「胸の内にあるアメリカ人としての尊厳」を取り戻したのである。

Topazチームの勝利で、試合に賭けられた2500ドルは失われることはなかった。賭けに勝って相手チームからもらったものは、Lyleの提案で、相手チームの選手でもある理容師Ed TullyによるLaneの散髪であった。理髪店のガラス窓に顔をつけて散髪の様子を見ているTopazの日系人たちの姿がこの映画は終わっている。

## 註

- 1 このGump Houseのように、重要な道路と直角に交わる長い並木道の奥に母屋が建っているのは、アメリカ合衆国南部の大農場、plantationの典型的なスタイルである。このような家に住んでいることから、Gump家は南部の上流家庭と関係していると思われる。
- 2 *An Officer and a Gentleman*では、主役のRichard Gere ら訓練生を厳しい訓練で徹底的に鍛え少尉任官まで育て上げる、黒人のdrill sergeantであるEmil Foley

- を演じたLouis Gossett Jr. (1936-) が1982年度のアカデミー賞助演男優賞を獲得している。
- 3 この場面では、黒人の将校は“Forrest Gump”とだけ声をかけているが、日本語字幕では、「ガンブ軍曹」となっている。Forrestの着ている軍服には軍曹の階級章が見られるが、日本人の観客にはなじみがない。軍曹にまで昇進したForrestより、この黒人将校が上官であることを観客に示そうとしていると思われる。
  - 4 この場面は、1971年9月11日にJohn LennonがYoko Ono (1933-) と“The Dick Cavett Show”に出演した際の映像を基にして創られている。Forrestが座っている席には、実際はYoko Onoが座っていた。またDick Cavettは1971年の姿ではなく、この映画のために本人が特別出演した、いわゆるcameo (カメオ出演) である。
  - 5 Danは、軍隊の牧師の言葉、“If I accept Jesus into my heart, I'll walk beside him in the kingdom of heaven.” 「イエス様を心に受け入れれば、天国で彼のそばを歩ける」をForrestに話した時は歩けないことで神に対して怒っていたが、この嵐に遭って神と和解したと考えられる。
  - 6 「神話・英雄伝説の法則」の中では、第一段階の「旅立ち・引越し」がほとんどの映画に見られる。

#### 参考文献とDVD

- Groom, Winston (1986) *Forrest Gump*, New York: Pocket Books.
- Robert Zemeckis (監督) (1994) *Forrest Gump* (『フォレスト・ガンブ 一期一会』)  
日本語字幕翻訳: 戸田奈津子、Paramount Pictures
- Taylor Hackford (監督) (1982) *An Officer and a Gentleman* (『愛と青春の旅立ち』)  
日本語字幕翻訳: 戸田奈津子、Paramount Pictures
- Jerome Hellman (監督) (1978) *Coming Home* (『帰郷』) 日本語字幕翻訳: 戸田奈津子、  
Metro Goldwin Mayer
- John Schlesinger (監督) (1969) *Midnight Cowboy* (『真夜中のカーボーイ』) 日本語  
字幕翻訳: 菊池浩司、Metro Goldwin Mayer
- Desmond Nakano (監督) (2007) *American Pastime* (『アメリカンパスタタイム…俺  
たちの星条旗…』) 日本語字幕翻訳: 篠原有子、Warner Bros
- 共同訳聖書実行委員会 (1987) 『聖書-新共同訳』東京: 日本聖書協会。
- スタジオ・ジャンプ編集 (1995) 『フォレスト・ガンブ 一期一会 パンフレット』東京:  
東宝出版・商品事業室

岡田広一（2009）「映画における水・橋・壁・トンネルの役割——日英米の映画に見られる神話・英雄伝説の法則の有効性——」吉村耕治（編）『現代の東西文化交流の行方 II』(pp. 273-288). 大阪教育図書